

eスポーツサポート校で

大宮に開校

プログラミング、動画も

対戦ゲームの腕前を競うeスポーツの人気の高まる中、NTT東日本の子会社が来年4月、通信制サポート校「NTTeSports 高等学院大宮校」を、さいたま市大宮区の大宮駅西口付近に開校する。昨年4月に開校した千葉校に続く2校目。ゲームの実技をきつかけに、プログラミングや動画編集も学べ、将来のゲーム業界やIT分野を支える人材の育成につなげる狙いだ。

(大井 洸樹)



eスポーツに打ち込む生徒たち(8日、千葉市で)

eスポーツは「エレクトロニック・スポーツ」の略。IT協会によると、2024年の国内市場規模は16年観戦や動画視聴を含む492万人に上るとされる。近年は国内外でプロの大会が開かれており、試合観戦や動画視聴を含む492万人に上るとされる。

同学院は、通信制高校に通う生徒の学習や生活を支援する通信制サポート校で、生徒は提携する通信制の「中央国際高校」に同時入学して高卒資格の取得を目指す。同学院で3年間eスポーツの技術を磨く。運営するNTT東日本の子会社は「NTTeSports」(東京都)

で、①NTTの高速通信回

線の活用②IT人材の育成などの狙いがある。

「ナイス!」「切り替えよう」。今月上旬、千葉市中央区にある同学院の千葉校では生徒約50人がヘッドホン越しに声を掛け合い、シューティングゲームの団体戦に熱中していた。高性能パソコンが1人1台用意され、NTTの高速通信回

線を活用②IT人材の育成などの狙いがある。近年、IT業界では人手不足が深刻化している。経済産業省によると、IT人材は30年までに約79万人の不足が見込まれる。NTTeSports事業開発部の井上裕晶さん(46)は「eスポーツを入り口にIT産業への興味を深めてもらい、将来は幅広い職種で業界を支える人材に育ってほしい」と話している。

講師で元プロ選手の佐藤正宗さん(25)は「競技に集中できる環境に加え、仲間と顔を合わせてプレーすること、協調性や思いやりも育まれる」と話す。同学院での学びは、競技力の向上だけではない。午後にはプログラミングや、生成AI(人工知能)を使った動画制作、eスポーツの市場分析などを学ぶカリキュラムも用意されており、デジタル分野での幅広い職業選択につながる知識や技能を習得できる。

大宮校でも同様のカリキ